龍谷大学 大学院 地域公共人材総合研究プログラム　ニュースレター

グローカル通信

2021.3 vol.55
Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

まだ春の浅いこのごろ、皆様いかがお過ごしでしょうか。引き続き今の職場、所属で頑張られる方もいれば、新しい進路に踏み出すという方もいらっしゃると思います。

グローカル通信 55 号では、修士論文を書き終えた院生の感想、今年度で龍谷大学を退職される先生からのメッセージ、実践的な通年科目及び講演会科目の感想などを掲載しております。

コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により講義も制限される中、オンライン講義も駆使し学習を進める大学院生の姿が伝われば幸いです。

まだまだ社会情勢が不安定な中、春の訪れに気を緩めず、健康にお気を付けてお過ごしください。

奈良市の未来をつくる‘まちづくり’と‘人づくり’	1
子育て家庭まるごとサポートをめざして	1
修士論文・課題研究を書き終えて	2
2020 年度修士論文・課題研究　題目一覧	2
退職教員からのメッセージ	3
実践的な科目の通年履修を終えて	3
講演会の感想	4
事務局インフォメーション	4

奈良市の未来をつくる‘まちづくり’と‘人づくり’

仲川 げん
（奈良市長）

奈良は日本のはじまりの地であり、「あをによし 奈良の都は咲く花の にほうがごとく 今盛りなり」と万葉集でも詠まれたように、国の都として、またシルクロードの終着点として、世界に門戸が開かれ、進取の気風に満ち溢れた国際交流都市でした。これら多くの人々の交流や多様な営みの結晶が、今もなお1300 年の時を超え、世界遺産「古都奈良の文化財」として現代に受け継がれています。

今日の奈良市は、総人口約 36 万人、総面積 277㎢の中核市で、市勢は、文化遺産が点在し多くの観光客が訪れる中心市街地、隣接する都市部で働く方の住宅需要に応える西部地域、そして豊かな自然を有する東部地域など、様々な特色を持つ都市として発展してきました。

特に、インバウンドの流れにより年々観光客が増加し、2018 年には 1700 万人を超えるなど、観光を中心に経済・産業面での賑わいを見せておりました。

一方で、急激な少子高齢化が進む中、人口減少による様々な課題も抱えております。さらに、世界的に拡大している新型コロナウイルス感染症により、これまでに経験したことが無い対応が求められています。本市では、こうした事態を受け、「医療提供体制の整備と感染拡大の防止」を中心に、「市民や事業者等への支援」、「デジタル化・非接触社会への対応」、「新たなくらしと将来を見据えた経済対策」を柱に、緊急対策を行っているところです。

急速な社会情勢の変化が起こる中で直面する、複雑多様化した市政課題に取り組む職員には、様々な地域の特性に応じたより高度な課題解決力が求められます。本市も、貴大学と 10 年以上にわたり地域人材育成にかかる相互協力に関する協定を締結し、これまで複数名の職員が地域公共人材総合研究プログラムを修了しておりますが、いずれの職員もプログラムで学んだことを活かし、多方面で活躍しております。

今後も、高度で専門的な資質を有し、地域を支え、地域をリードできる地域公共人材の育成に向けて、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

子育て家庭まるごとサポートをめざして

切明 友子
（特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク理事長）

働きたいおんなたちのネットワークは、宇治市に拠点を置き、2000 年の設立以来、生きづらさや働きにくさのある女性たちの自立支援や子育て家庭の課題をまるごとサポートする事業に取り組んできました。当時は、役員・会員共に女性だけの NPO 法人設立は初めてだと京都府の担当者から聞き、新しい活動である NPO であっても女性の参画は進んでいなかったことを思い出します。

現在、事業は主に二つの訪問型と三つの居場所型事業及びデイサービス事業をしています。

訪問型事業は、年間 500 以上の乳児家庭に地域の子育て支援情報を届けるとともに平均 40 分程度の会話を大切にしています。また、子育て家庭訪問サポートでは、子育てや家事を代行するのではなく子育て女性と一緒に行い、サポートがなくなっても自立して子育て等ができることをめざしています。今回のコロナ禍で孤立状態になった家庭の要望があり感染防止の対策を講じての訪問となりましたが、その家庭のコロナ禍以前の当たり前の生活を支えることの大切さを改めて感じました。

居場所づくり事業では、0 歳から 5 歳のこどもとその親の交流の場である居場所 2 か所で年間 450 日程度の開催をして、子育て支援講習や相談等も実施しています。ひとり親家庭のこどもの居場所づくり事業は、年間 150 日以上の開催をし、交流の場の提供、大学生のおにいさん、おねえさんによる学習や食事等の支援をしています。

デイサービスセンターを開設したことにより、センター 2 階の子育て支援事業と連携をして、子育てと介護をつなぐダブルケアの相談対応ができるようになりました。

子育て家庭をまるごとサポートする上での課題の一つは、子育て家庭の複数の人の複数の課題に包含的に対応できる窓口が地域の中にないことです。ヤングケアラー支援のためにも、地域の中を顔の見える関係でつなぐことのできる地域の人がいて、いつでも行ける「まちの保健室」のような場を創りたいところです。

これまでも貴大学で地域公共人材として学んだ女性たちが地域で活躍しています。今春も女性が学ぶ機会をいただきました。貴大学で学びを深めた女性たちが地域を包含的につないで地域の今と未来を創る人材となることを大いに期待しております。

修士論文・課題研究を書き終えて

田中 優大　政策学研究科修士課程２年

修士論文を書き終えて

私は、卒業論文から三年にわたり、京都市の戦後から高度経済成長期までの都市計画史を研究してきました。修士論文を書き終え、未熟ながらも私の研究を一つの知見としての形にできたことを、嬉しく思います。これからも、一社会人として都市への探究を続けていきたいと思います。

また、都市を学び、探求する喜びを教えてくださり、修士論文のご指導をいただいた阿部先生に、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。

最後に、アドバイスをできるような身分ではありませんが、これから修士論文を書かれる皆様へ。論文は予想している何倍にも書き始めてから時間がかかるものですので、くれぐれも早めにご準備を。

西尾 洋士　政策学研究科修士課程１年

修士論文を書き終えて

はじめは別々の点であった「講義で学んだ知識」や「修論指導、中間報告会等でご指導いただいた内容」、「仕事上での経験」が段々とつながって線となり、最後は一つの論文になったような不思議な感覚の中で、修士論文を書き終えました。修士論文は私一人で完結できるものではなく、この１年間の学び舎での経験や出会いの集大成なのだと改めて感じることができました。主査、副査の先生をはじめ、１年間いろいろな形でお世話になった皆さんに感謝いっぱいの気持ちです。

私の修士論文は実践の中で活かすためのものです。修士論文を書き終えて、これはゴールではなく、あくまでも通過点として、築き上げた理論を職場での実践につなげていきたいと思います。

徳田 栄美子　政策学研究科修士課程１年

修士論文を書き終えて

この半年を振り返ると、授業でえられたことや、中間発表・中間報告での先生方のご意見などをどのように修論にいかすことができるか、研究の論点をどこに置くのか、考えをどう表現すれば適切なのかなど難しいことばかりで、悩みながら書き進める日々はあっという間でした。今読み返すと自分でも物足りないですが、修論に向き合うことから、読み書き・調査・まとめ、多方面の学びがあったことも成果だと感じています。また、授業の課題には苦労しましたが、先生の話しや学生さんの視点は興味深く充実した楽しい時間でした。あらためて石倉先生はじめ先生方、お世話になったみなさまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

西野 智子　法学研究科修士課程１年

修士論文を書き終えて

社会問題となっている年金制度について研究しようと入学しましたが、問題意識が明確でないと気づくことからのスタートでした。伝えたい主張を明確にしたり、課題を客観的に裏付けしたり、説明するための理由づけを探るなど、一つの課題を深く、しかも俯瞰的に考えて論理を立てていくのは面白い反面、なかなか上手く進まずとても苦しい経験でもありました。振り返るとあっという間の１年でした。授業では多くのことを学び、修士論文を書くことにより視座が高まったので、今後の職業生活に活かしたいと思います。ご指導いただいた先生方、励ましてくださった院生や先輩たち、細やかな支援をしてくださった大学関係者の皆様のおかげで、充実したときを過ごせたことに感謝しています。

2020 年度　修士論文・課題研究　題目一覧

No.	氏　名	研究科	区　分	修士論文・課題研究　題目
1	和泉　汐里	政策学研究科	修士論文	EU の衰退コミュニティ再生政策における統合的アプローチの質的変化に関する研究　―URBACT Ⅲに着目して―
2	金本　さくら	政策学研究科	修士論文	都市住民による自然創出行為の発生要因　―植木鉢のあふれ出しを育てる人々―
3	田中　優大	政策学研究科	修士論文	地域指定とその構想にみる 1940 年代から 1960 年代の京都市における都市像と計画論的意義
4	田中　友梨	政策学研究科	修士論文	子どもの自己決定権の再検討　～自律へのプロセスを重視して～
5	西井　勇貴	政策学研究科	修士論文	水害等避難行動タイムライン作成に関する効果の検証
6	筈谷　友紀子	政策学研究科	修士論文	空間の残存に着目した悲劇の記憶の継承メカニズムに関する考察
7	星尾　玄	政策学研究科	修士論文	行政と NPO における協働の変容に関する一考察　～ NPO への期待と NPM 的協働～
8	正岡　祥英	政策学研究科	修士論文	「市民性を育成することを目的とした教育」が抱える現状の課題とその解決アプローチ ―短期的及び中長期的な視点による考察―
9	王　子常	政策学研究科	修士論文	滋賀県環境保全政策における環境ガバナンスの形成と発展の研究 ―官民産学のパートナーシップ関係の形成プロセスを通して―
10	潘　俊傑	政策学研究科	修士論文	日本に就職した元留学生の定着要因に関する一考察　―中国人の元留学生を中心に―
11	李　非凡	政策学研究科	修士論文	日本の家庭系一般廃棄物処理と減量政策に関する研究　―京都市の事例を中心とした考察―
12	盧　鶴天	政策学研究科	修士論文	新中国が建国以来農村土地政策の変遷に関する研究
13	堀家　沙里	政策学研究科	修士論文	衰退する和紙文化保存に向けた実践的研究　―コミュニティラボ創造のプロセスを通じて―
14	海老原　幸子	政策学研究科	修士論文	コミュニティ財団の組織基盤の実態と課題　―構造的な脆弱さとその強化を考察する―
15	黒田　かおり	政策学研究科	修士論文	テレワークの導入で子供を持つ女性の働き方の選択肢は増えるのか
16	鈴木　美帆	政策学研究科	課題研究	高槻ジャズストリートの実態に関する一考察　～新しいテーマ型コミュニティの生成に着目して～
17	徳田　栄美子	政策学研究科	修士論文	資金循環に係る東近江三方よし基金の取り組みの効果と課題
18	西尾　洋士	政策学研究科	修士論文	基礎自治体職員の職場研修（OJT）の課題分析と改善提案 ―採用 1 年目職員に対する研修プログラムとしての OJT の実施について―
19	藤原　智之	政策学研究科	修士論文	金融機関の組織変革におけるモチベーション調査　―京都のある信用金庫を事例に―
20	米村　博昭	政策学研究科	修士論文	地方都市における流通しにくい空き家利活用を支援する団体の組織の現状について
21	西野　智子	法学研究科	修士論文	遺族年金における給付対象としての婚姻関係像についての考察　－ＤＶ避難による別居配偶者を題材として－
22	田村　浩	法学研究科	修士論文	能力不足を理由とする解雇と労働契約　－中途採用者の労働契約と解雇濫用法理－

退職教員からのメッセージ

現在進行形の問題に取り組む研究を

法学研究科　**木下 秀雄**　先生

私にとって、龍谷大学に居た４年間で、多くの地域公共人材総合研究プログラムで大学院に入学された皆さんと一緒に勉強できたことは、大変印象深いものがある。まさに今現在、現実に問われている問題をテーマに取り上げようとする問題意識の多彩さと、人柄の多様さに大いに刺激を受け、大変楽しい大学院の授業であった。社会保障法ないし社会法の研究というのは、日々の生活実践の中で生起している社会問題の中に正義を問う、という営みだと思う。現在コロナ禍の真っただ中にあり、今何が起こっているか、現在生起しているものであるがゆえに見えないことが多い。そんな中、現実生活の問いに耳を傾け、事態が現在進行中の問題をとらえ、課題を提起することが重要であると思う。そのためにも、広い視野と、そして同時に足元での具体的問題発見という「グローカルな視点」が求められている。今後の発展を大いに期待している。

ごあいさつ

政策学研究科　**土山 希美枝**　先生

龍谷大学を退職することになりました。

法学部政治学科から政策学部たちあげにかかわり、その源流のひとつであるNPO・地方行政研究コースにもずっとかかわってきました。立ち上げの連携協定締結では近畿の自治体に知人もおらず電話でアポ取りをして営業に行ったり、応募者が少なかった時期には勧誘の電話をかけたり、渾身の申請で大学院GPに採択されたり、10＋１周年で修了生と再会したり。一年一年の院生のみなさんの研究のご様子や笑顔がこのコースの支えで、コースにかかわる私の喜びでしたし、立場は変わっても、ずっと、喜びであり続けます。心からの感謝と、過去･現在･未来のコース生のみなさんのご活躍のご祈念を申し上げます。

実践的な科目の通年履修を終えて

堀 聡　政策学研究科修士課程１年

地域公共人材総合研究特別演習

この地域公共人材総合研究特別演習（以下特演）においては、様々なバックグラウンドや問題意識を持つ他の学生さんと学びを共有し切磋琢磨できたことに価値があると感じました。中には高い専門能力を持って地域の最前線で働かれている現職の職員の方や、海外からの留学生の方など、私が全く知りえない問題について研究されている方も多く、大変よい刺激になりました。講義自体も報告を作成、発表しその後に質疑応答を受けるという論文執筆のトレーニングとしては最適なものであると感じ、自分の当番の発表はもちろん、ほかの方の発表の際も可能な限り研究者としての視点からの質問ができるように取り組んだつもりです。

黒田 かおり　政策学研究科修士課程１年

フィールドワーク特別研究

今年度のフィールドワーク特別研究では「職場の課題解決」をテーマに院生がそれぞれの職場の課題を出し、その課題に１年間の間にどのように取り組んだのかを発表し合う場になりました。４月に課題設定、９月に中間報告をして、１月に最終報告をするスタイルで、自身は、実店舗の非対面ビジネスの方法と効果をテーマに発表してきました。

具体的には、自身の運営する体質改善サロンで今まで対面メインで行ってきたメニューを非対面ビジネスにしていくにはどんな取り組みが出来るのか、また周りの対面メインの実店舗やサービスで非対面にすることでうまくいった例などを調べたところ、普段であれば聞きづらい事業のコツなどが課題を通して周りの店舗や事業者に聞けたことで、自身の事業のサービスにも活かせるヒントが得られる貴重な機会になりました。

TOPICS

先進的地域政策研究講演会（2020 年 11 月 16 日実施）

講　師：田口　奈緒 氏（兵庫県立尼崎総合医療センター産婦人科部長／特定非営利活動法人性暴力被害者支援センター・ひょうご代表）

テーマ：10 年後来る彼女のために

政策学研究科修士課程 1 年　**木下　太朗**

田口氏は、兵庫県立尼崎総合医療センター産婦人科での業務の傍ら、NPO 法人性暴力被害者支援センター・ひょうごで、性暴力の被害にあった人々の支援に取り組んでいる。講演会では、性犯罪・性暴力の特性や、被害者支援を行うワンストップ支援センターの役割のほか、NPO を運営するにあたっての課題など、現場で先進的な取り組みを行っている方ならではのお話を聞くことができた。なかでも、性暴力被害者の二次被害や PTSD 罹患率の高さの話、性暴力被害者支援センターの形態や各々の組織における性暴力に関するスタンスの違いの話については、とても興味深く聴いていた。内容が内容だけに重く感じるところもあったが、それだけ様々なことに目を背け、解決するべき問題から逃避している自分に気づくとともに、性暴力被害にあった人々のために、日ごろからどのようなことを心掛けるべきなのか考えさせられる機会となった。

先進的地域政策研究講演会（2020 年 12 月 14 日実施）

講　師：原　亮 氏（特定非営利活動法人 Code for Osaka 理事／エイチタス株式会社代表取締役）

テーマ：地域課題解決に活かす IT の発想

政策学研究科修士課程 1 年　**青木　滉人**

先進的地域政策研究の第 2 回目の講演では、『地域課題解決に活かす IT の発想』をテーマに原亮氏のお話を聞かせていただきました。ご講演の中では、特定の地域課題について多様な地域住民が集い、未来志向的に語り合う「アイディアソン」の取り組みや、地域や行政のデータをオープン化することで、市民が地域課題を見つけ出し、作り手が素早く実践し、解決に向け取り組んでいく「シビックテック」など、チャレンジングで魅力的な IT のお話をお伺いしました。

ご講演を聞かせていただくまでは、IT という分野に対して「自分には関係のない話」や「地方では難しい話」というイメージがありました。しかし、一般の方が IT に興味を持ち、チャレンジしたことで、結果を出されている多くの事例を聞かせていただいたことで、IT にとても興味を持ち、自分の地域活動の中でも、IT を活かした取り組みをやってみたいと感じました。

地域リーダーシップ研究講演会（2021 年 1 月 23 日実施）

講　師：豊田　知八 氏（保津川遊船企業組合代表理事／特定非営利活動法人プロジェクト保津川副代表／京都大学東南アジア研究所・連携研究員／森の京都 DMO 取締役）

テーマ：保津川から発信するプラスチック削減の活動ー亀岡市プラスチックごみ禁止を目指すー

政策学研究科修士課程 1 年　**今村　佳代**

亀岡市は 2018 年に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、日本で初めてプラスチック製レジ袋の提供を禁止する条例を施行しました。そこに至るまでの経緯や、プラスチック削減に向けた事業展開についてご講演いただきました。

講演を通して、レジ袋を禁止することが目的ではなく、次世代に美しい環境を受け継ぐことが目的であることがよく分かりました。

豊田氏は、リーダーの資質として「自分が今何をしていかないといけないかと思ったときに、それに向かっていく勇気、責任、覚悟を持って行動していくこと」が重要だと述べられていました。地域の問題を解決するためには、地域を巻き込む必要があると思います。地域の人からの協力を得る過程では、厳しい意見にも向き合わなければなりません。その時に、地域の課題に対して一歩も引かないリーダーの姿勢と、ルールを押し付けるのではなく、丁寧に議論をすることが重要であると強く感じました。

先進的地域政策研究講演会（2021 年 1 月 26 日実施）

講　師：松岡　裕史 氏（長門市経済観光部／やきとり課 課長補佐）

テーマ：公民連携による温泉再生プロジェクト

政策学研究科修士課程 1 年　**鈴木　美帆**

講演者の松岡氏は、長門市の職員として、近年負のサイクルから抜けだす事が困難な状況に陥っていた長門湯本温泉の復活に尽力されています。その復活プロジェクトに於いては、「カタチだけ実行しにかかる行政のやり方」ではリスクがあると感じた、と仰っていたこと、またそれを「総花的」だと表現されていた事が印象的でした。

組織の慣例に疑問を呈してより優れた方法で行動する人がいる、存在できる組織は魅力的です。しかしながら、組織の既存ルールにあてはめなければ組織を動かせない事が多いのも事実で、そこを変えられるのは組織をも惹きつける人間力と実行力のある人なのだと思います。

地域課題の解決には、柔軟な思考力や行動力はもちろんのこと、人や組織を惹きつける人間力と実行力が必要なのだと改めて感じるとても刺激的な講演でした。

コロナ禍が落ち着いたら、ぜひ長門湯本温泉に訪れてみたいと思います。

事務局インフォメーション

●学位記授与式
日　時：2021年3月20日（土）10:30～
場　所：龍谷大学深草学舎顕真館

●入学式
日　時：2021年4月1日（木）16:30～
場　所：龍谷大学深草学舎体育館

●次回以降のグローカル通信について
紙媒体での発行をとりやめHPでの公開と致します。地域公共人材総合研究プログラムの取組みの状況について、より充実した内容を発信して参りますので、ぜひ本学HP上でご覧ください。

地域公共人材総合研究プログラム　ニュースレター『グローカル通信』通巻 55 号　2021 年 3 月

発　行／龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム
連絡先／政策学部教務課
TEL：075-645-2285 FAX：075-645-2101
H　P／http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/
編　集／木下太朗、堀聡
編集補助／神野華奈子、河野英治、谷穂乃美
監　修／グローカル通信編集委員会
印　刷／株式会社 田中プリント